

# PAM通信 コラム

2009年6月発行

## 第27回 タイトル：JUMP

「君子は豹変す（クンシはヒョウヘンす）」という言葉はどこかで耳にしたことがあるのではないのでしょうか？この言葉は“あの人は節操なく変わり身が早い”などの、あまり好ましくない意味で使われることが多いように思われます。しかし、本来は「君子は豹変す」の後に「小人は面を革む」と続き、その意味は“立派な人物ほど自分が誤っていることに気づくと、きっぱりと改める。つまらない人物はうわべしか変わらない”というものだそうです。また、辞書には“A wise man changes his mind, A fool never.”という英訳が載っていました。

現在のアメリカ大統領のオバマ氏が「Change」という言葉をキーワードに大統領選を闘い、勝利したことは記憶に新しいのではないのでしょうか。さらにオバマ氏は「There is something happening. “何かが起こりつつある”」という言葉で演説を始め「Change」を際立たせていたそうです。

現状に近視眼的に満足しているときには変わることを避けたくなるものです。また、新しいことを始めることや自分の考え方や行動を変えることは、現状維持で精一杯なときほど恐ろしく感じられます。しかし、君子やオバマ氏の例でもわかるように、変わることは時には創造的なエネルギーに満ちていると思います。生き物の生存システムに当てはめて考えてみても変わることができなかった種（恐竜など）は滅びてしまっています。つまり、変わることは苦しく、創造的で、必然でもあるのでしょうか。そんな、「変わること」を恐れず、可能な限り楽しむためにはポジティブな将来展望を持つことが良い方法ではないのでしょうか？できれば私たちも変わることを楽しみたいものです。

より良い事業者へ・より良い介助者へ・より良い利用者へ・より良い人間へ  
(デンジャラスのノッチ風に) チェンジ！ イエス ウィ キャン！（T）